



# にれ はみ

2020年5月10日  
聖日礼拝  
創世記4：1～12  
「はじめての兄弟たち」  
説教 渡邊貞雄 師



先週はアダムとエバが誘惑に遭い木の実を食べた出来事でした。心の王座に自分が座ってしまいました。4章はその悪い影響を見せつけられるところです。

## I、アダムとエバについて

アダム、エバ、サタンは、それぞれ重いペナルティーを与えられた（3：16～18）。二人は追放されてエデンの園の東に住み、そこで二人の子供を与えられた。アダムは「人」で、エバは「命」の意味。

一見順調で幸せに見える家庭でしたが、二人の兄弟間には取り返しもつかない大きな悲劇的破れが生じていた。

## II、カインとアベルについて

破れは捧げもので表面化した（3～7）。兄は農耕の産物を、弟は牧畜での良い羊を捧げた。神はアベルに目を留め、カインには留めなかった。彼は激しく怒り顔を地に伏せた（4、5）。

神はなぜそうされたのか。いくつかの理由を探してみよう。①信仰の違い（ヘブル11：4）。②良心の違い（Iヨハネ3：12）兄の行いは悪かった。③贖いの理解の違い。呪われた土地の産物と神の小羊を捧げた。④性

格の違い？カイン「得る、造る」意。アベルは「息」で、儂さと弱さの中に神を仰ぐ人生を暗示した。カインは努力で「得る」、勝ち取る人生だった。

怒りを露わにするカインに、神は「なぜ怒るのか」と2回も尋ねた（6）。カインは弟を妬み、心の汚れたままでも神の前に出たのだろうか。

## III、共に生きるべき兄弟

カインは問題解決の方法を間違え、弟がいなければ（死ね）良いと考えた。ある日、野に弟を誘いだし殺害計画を実行した。神はカインに「あなたの弟アベルはどこにいるのか」と問いかけた（9）。彼の返答は「知りません。分かりません。弟の番人じゃありません。」と懽然とした態度であった。

神は「あなたの弟はどこにいるのか。」と問いかけられる。血の繋がった兄弟が共に生きるべきであったが、カインは無慈悲、無関心、愛の欠如であった。

人間は、共に生きる道こそ祝福である。神は御霊を与え、時間をかけて私たちに内的な実を結ばせられる。福音を知った者、聖書に触れた者の恵みの世界は考えている以上に深く大きい。